



新潟国際情報大学

[本校]〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1

tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690

[新潟中央キャンパス]〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169

tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7417

http://www.nuis.ac.jp somu@nuis.ac.jp

平成20年7月20日 発行

Vol.39

国際・情報



夏期セミナー

派遣留学

5カ国で体験

貴重な時間 大きな自信に

受け身では効果は半減

カナダのアルバータ大学はトロント大学に次いで大きな大学です。地下鉄の駅も商店街も敷地内にあります。行き先が分からなくて地図を見ていると、どこへ行きたいのかと声がかかる、そんな雰囲気です。過ごしやすく、国内に英語圏・フラ

境でも受け身していると効果は半減します。5週間は大変短く、ホームステ

イ前の2週間も非常に貴重です。ともあれ寮から出てカナダの方と話してみてください。道を聞くのが、図書館のPCの使い方、中古の車を買い手が、きつかけはいくらかでもつくります。そして、カナダの生活や文化の違いを感じてきてください。

情報システム学科長 近藤 進

留学というのは不思議な体験である。自分の生まれ育った土地を離れ、それまでの社会的環境の多くを捨て去り、住んだこともない土地に移動する。そこには新たな環境が多くある。

その最大のものは「ことば」だろう。初めのう

それはまた言葉だけの問題ではなく、大げさにい

科の派遣留学制度の提携大学はロシア、中国、韓

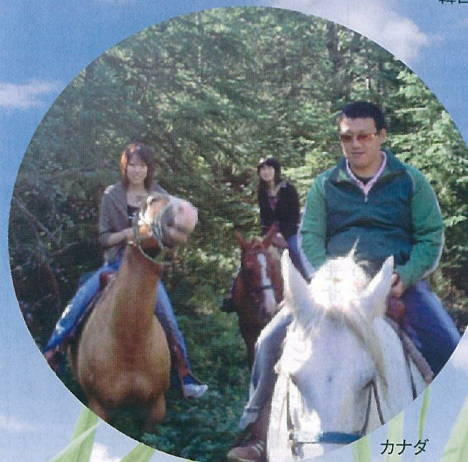
価値観が変わる醍醐味

ち、あいさつさえ思いどおりにできない言語によって、とにかく何かを伝えなければならぬ。それまで当たり前のように思われていた言葉による自在な表現が、突然大きな困難を伴う行為となる。

情報文化学科長 越智 敏夫



韓国



カナダ



中国



ロシア



アメリカ

CONTENTS

2・3面

現代GP国際交流インストラクターの活躍
海外派遣奨学金授与式と壮行会
平成20年度スケジュール表

4・5面

大学機関別認定評価を受審
「カナダ再発見」教員海外研修報告
情報システム技術プログラムJABEE認定
卒業生に修了書授与式
教員の活動(2008年上半期)

6・7面

私の研究テーマ
お薦めBOOK
スポーツ大会を終えて
オープンキャンパス NUIS-LIVE案内
平成20年度入試日程概要一覧

8面

国際交流フェアで留学の成果披露
アルバータ大から学部長らが表敬
卒業生の便り
湧源・編集後記に代えて

「現代GP」採択事業 国際交流インストラクター

出前授業で国際理解に貢献

質の高いワークショップ展開

学生60人参加 6テーマのグループ結成

本学では、「地域の国際化を推進する参加型実践教育」として、県内の小・中学校、高校に国際交流インストラクターを派遣し、国際理解を推進するという事業を展開しています。

この事業は、文部科学省の大学教育改革補助金の一つ「平成19年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム」（略

自らも学び、充実の学生生活

情報文化学科3年 熊倉 静

称「現代GP」にも採択され、新潟県の国際化・活性化を推進する事業として、県内の教育界から高く評価されています。昨年度までに40人以上の学生がインストラクターとして、県内の延べ44の小中学校・高校に派遣されました。

今年度は、情報文化・システム両学科から学年を問わず60人近くの意欲あふれる学生が国際交流インストラクターを養成するために設置された授業を通じ、インストラクターとして必要な知識、コミュニケーション方法などの習得にむけて真剣に取り組んでいます。

今年度は、1グループ7人前後からなるグループが6つ結成され、それぞれのグループが「世界の光と陰」「多文化 ポジティブ」「食から見るシヨックな世界」「チームどうぶつえん」「環境問題」「遠く近い世界」といったテーマを設定し、現在、実践にむけて準備に余念がありません。

なお、今年度から、県立新潟女子短期大学や敬和学園大学とも合同でこの事業を行っています。学内外の学生と相互に切磋琢磨し合うことによって、これまで以上に質の高いワークショップが実現できるものと期待されています。



小学校で楽しいワークショップを展開

国際交流インストラクターが派遣された学校(平成19年度分)

新潟市立	五十嵐小学校 黒崎南小学校 山の下小学校 巻南小学校 真砂小学校 桃山小学校 割野小学校 森町小学校 根知小学校 新潟小学校
三条市立	五泉東小学校 須田小学校 猿橋小学校 上海府小学校 第二上田小学校 井口小学校 東湯之谷小学校 東谷小学校 新井中央小学校 矢代小学校 鱒石小学校 新道小学校 中条小学校
糸魚川市立	白新中学校 二葉中学校 愛宕中学校 阿賀野高等学校 翠江高等学校
見附市立	
五泉市立	
加茂市立	
新発田市立	
村上市立	
南魚沼市立	
魚沼市立	
長岡市立	
妙高市立	
柏崎市立	
胎内市立	
新潟市立	
五泉市立	
新潟県立	

平成19年度の活動実績

派遣学校数	29校
派遣回数	35回
受講した生徒数	2670人

私は、国際交流インストラクターとして活動をはじめ、今年で3年目になります。インストラクターとして小中学校の生徒さんたちと1回90分のワークショップを行うためには、その中に多くの計画を盛りこまなくては

いけない。昨年、私は「イスラエル・パレスチナ」問題についてのワークショップを行いました。これは長年にわたって続く国際的にも解決の難しい問題です。それを小中学生に考えてもらうにはどうしたらいいだろう、と

思っています。ワークショップをつくっていく過程は自分自身の勉強になりましたし、多くの先輩や後輩、先生と触れ合うこともできました。それらは大學生生活をより充実したものにしてきています。

今年も本当にたくさんさんの学生がこの事業に参加してくれています。今年度は、私の学年が引退していかなくてはなりません。来年も再来年もいいワークショップができるように、私の知っているものすべてを後輩に伝えていこうと考えています。

平成20年度のスケジュール表(出発順)

国名/留学大学	留学期間	参加人数
カナダ アルバータ大学生涯教育学部	平成20年8月3日(日)～ 9月7日(日) (5週間)	情報システム学科 2年次学生 13人
アメリカ ノースウエスト・ミズーリ州立大学 教養学部	平成20年8月18日(月)～ 12月14日(日) (17週間)	情報文化学科 2年次学生 12人
韓国 慶熙大学国際教育院	平成20年8月29日(金)～ 12月26日(金) (17週間)	情報文化学科 2年次学生 7人
中国 北京師範大学歴史学院	平成20年9月4日(木)～ 平成21年1月7日(水) (18週間)	情報文化学科 2年次学生 9人
ロシア 極東国立総合大学	平成20年9月4日(木)～ 平成21年1月8日(木) (18週間)	情報文化学科 2年次学生 9人
参加学生数合計		50人

海外留学・セミナー参加学生の累計

	中国	韓国	ロシア	アメリカ	カナダ	計
平成7年度	29	14	7	13		63
平成8年度	15	13	20	17		65
平成9年度	31					31
平成10年度			7	14		21
以上 海外研修計	75	27	34	44		180人
平成12年度	30				20	50
平成13年度	15	12	6	17	14	64
平成14年度	17	9	3	13	17	59
平成15年度	(中止)	4	1	11	6	22
平成16年度	31	7	2	13	8	61
平成17年度	18	13	5	12	22	70
平成18年度	9	5	0	7	3	24
平成19年度	16	10	12	25	9	72
平成20年度	9	7	9	12	13	50
計	145	67	38	110	112	472人
合計	220人	94人	72人	154人	112人	652人

50人参加 8月から順次出発

大学機関別認証評価を受審して

情報文化学部長
槻木 公一

平成16年4月の学校教育法の改正施行によって、すべての大学は7年以内に外部の評価機関による大学機関別認証評価を受けることが義務づけられました。

本学は昨秋、外部評価機関の一つである(財)日本高等教育評価機構の審査を受け、定められた評価基準をすべて満たしていることが認められ、平成26年3月までの認証を得ました。

この評価結果は、大学のホームページで公開していますので、ぜひご

覧ください。

この認証評価の目的は、外部機関が定期的に審査することを通して、

り、大学の自律的な発展を促すことにあります。

特に私立大学においては、特色あ

特色ある教育展開に高い評価

継続的な改革改善に努力

大学の教育研究活動が、継続的に改革改善され、その質が保証されることと、評価結果を公表することによって社会から支持される存在とな

る建学の精神・大学の基本理念を教育内容に明確に反映しているか、大学設置基準や学校教育法などの法律を遵守しているか、学校法人として

適正な経営運営と財務管理がなされているかが問われます。

審査においては、本学が作成した自己評価報告書と付属資料等による書類審査の後、教職員、在校生、卒業生に対するヒアリングを含む実地調査が、昨年10月に3日間にわたって行われました。

この評価を受ける意義は、大学として教育研究活動及び財務を含む管理運営活動を継続的に改革改善していくところにあります。今回認証されたことを契機として、これからの教職員一丸となつてさまざまな改革改善に取り組んで行かなければならないと考えています。

教員海外研修報告

カナダアルバータ大学エクステンション学部

「そう言えばカナダの君主はエリザベス女王だ」2007年9月から6カ月間のカナダ・アルバータ大学での教員海外研修の半ばを過ぎたころに、ふと思った。

カナダはあらゆる面で、米国に近いという「予断」をもっていた。

大学教員になる前、ロサンゼルス(米国)に駐在していたころ、カナダに出張で数日滞在したが、そのときは、この予断を確認したにとどまった。

しかし、今回の滞在はいろいろなことを気付かせてくれた。研修テーマの成果は別途論文に著すとし、ここでは、カナダに關しての再発見の一端を紹介する。

カナダは、もちろん隣国である米国とのかかわりを否定することはできない。長期滞在なので、当然、地元のスーパーマーケットの世話にもなるが、冬場はマイナス30℃を下回る日もあるというのに、豊富な種類の果

カナダの寛容さを再認識

エクステンション学部は2008年1月に社会との接点を重視するため交通の便も良い州都エドモントン市のダウンタウンに移転した



違う物差しを手に入れる

物が売られている。これらはフロリダやカリフォルニアなどから来るそうである。カナダは現在メートル法を採用しているが、これらの果物は、米国で使われている重量単位のポンドで

の秤売りである。そして、大手スーパーマーケットやショッピングモールの多くの店では、ミドルでの買物ができるのである。

一方で、日本にもあるハンバーガーチェーンの大きなアルファベットのMのサインの真ん中には、カナダを主張するかのように入っている。また、何げなしにつけたテレビドラマでは、カナダの役人が米国憲法と一人の中東系カナダ国民の人権問題でやりあうというシーンをやって

いた。そして、米国の大学での勤務経験もあるアルバータ大学エクステンション学部の学部長は、カナダの大学に戻ってホッとしたりと語っていた。物事のやり方、進め方、人間関係が米国とカナダでは違うのだそうである。

このあたりから、地政学上も、強く意識せざるを得ない巨大な米国の国境と、自国の

情報システム学科・教授 桑原 悟

換言すると、あえて今突き詰めることはせず、長い年月の中で衝突の無害化を図り、将来により良い解決法を託す知恵である。

物事は、一つの考え方である「きれいに」解決したいものであるが、問題が難しくなると壁に突き当たる。そういうときは、違う物差しで測るとうまくいく場合がある。その物差しをもう一つ手に入れたことは、実は、今回の最も大きな成果の一つであった。

3)その他

池田嘉郎(情報文化学科・講師)

・21世紀COEプログラム総括シンポジウム「スラブ・ユーラシア学の幕開け」討論者(「ソ連体制の構築における学知の役割」2008年1月25日)「コーカサス空間の構築:想像された『民族国家』」1月26日。

小林元裕(情報文化学科・准教授)

・翻訳(2008)陳慈玉「植民地期から戦後における台湾の社会運動史研究について」『年報 日本現代史』第13号(241-259頁)。

佐々木 寛(情報文化学科・教授)

・講演(2008年1月16日)「グローバルな労働問題の現在」G8サミットを考える会主催。
・コメント(2008年2月22日)「世代と国境を越えて考える戦争と平和—沖縄・戦争・子供」明治学院大学国際平和研究所主催。
・基調講演(2008年2月23日)「北東アジア平和の条件」NPO法人ピースデポ主催10周年記念シンポジウム。
・シンポジウム・チュア(2008年3月9日)「日朝関係の再出発—拉致問題の解決を目指して」北東アジアの平和を考える会主催。
・学会討論者(2008年3月16日)「『平和構築』とNGO—軍民関係の困難を考える」日本NPO学会。
・報告(2008年3月22日)「中米スタディツアー報告会—メキシコ・キューバ・コスタリカを訪ねて」ナインにいがた主催。

・講演(2008年6月21日)「暮らし方としての日本国憲法—生活者と世界を結ぶもの」新潟県平和運動センター主催。

アレクサンドル・ブラス(情報文化学科・教授)

・講演(2008年3月3日)「現代日本の法務制度について」極東大学東洋学部。
・講演(2008年3月5日)「現代日本の学校教育」極東大学東洋学部。
・講演(2008年3月7日)「現代日本の大学教育」極東大学東洋学部。
・新潟市ロシア語スピーチコンテスト審査委員長(2008年6月21日)。

矢口裕子(情報文化学科・准教授)

・書評 杉山直子「アメリカ・マイノリティ女性文学と母性—キングストン、モリスン、シルコウ」(彩流社)『女性学』第15号(2007)日本女性学会。
・書評 アナイス・ニン「インセスト」杉崎和子訳(彩流社)『図書新聞』2874号(2008年6月21日)。

澤口晋一(情報文化学科・教授)

・執筆 新潟日報(1月27日朝刊)書評「新潟もの知りブック」
・講演(2008年2月7日)「新潟の活断層と地震」新潟市関屋地区公民館。
・講演(2008年5月17日)「野外観測から見た風衝裸地における土砂移動の特徴」環境省主催・磐梯朝日国立公園登山道調査にかかる意見交換会。
・講演(2008年7月3日)「地図にみる日本と世界の寒冷地の自然環境」にいがた市民大学。
・講演(2008年7月10日)「地図から読み解く世界の寒冷地の地形」にいがた市民大学。



JABEEの認定証

情報システム技術プロ

平成19年度は、27名(既卒者)が修了し、JABEEから認定されたコースを修了したことの証明として、本学が交付するJABEE認定プログラム修了書が7月12日に授与されました。

生は、文部科学省令で定める技術士資格一次試験免除の優遇措置が受けられるとともに、「将来情報システムを開発する技術者になるために必要な教育を受けている」という社会的評価が与えられます。

それらの授業科目の評価が一定水準以上であれば、情報システム技術プログラムの修了生として、JABEE認定プログラム修了書が与えられます。

ム技術プログラムに登録し、修了書の取得にチャレンジすることを期待しています。日本技術者教育認定機構(JABEE)は、技術者教育認定制度の中で、

この結果、平成19年度からの情報システム技術プログラムの修了

県下で初 卒業生27人に修了書

授業内容に社会的評価

本学情報システム学科の「情報システム技術プログラム」は、日本技術者教育認定機構(JABEE)の「情報および情報関連分野」で、2007年度認定証を受領しました。この分野では、国内で29番目、新潟県では初めての認定プログラムとなります。

プログラムを修了するには、このプログラムに登録し、情報システム学科のカリキュラムの中で、JABEEが情報システム技術者の育成のために必要であると定めた授業科目を選択し履修しなければなりません。そして、

情報システム技術プログラムの登録は、3年次開始時点でを行います。登録を行わないと、同じ授業を履修していても、修了生としては認められません。本学の卒業要件ではありませんが、ぜひ多くの学生が情報システム

大学などの高等教育機関の技術者教育プログラムを、専門的、中立かつ公平に評価し、国際水準や社会的要求に適合する内容とレベルの教育が実施されていることを審査、認定する非政府団体です。日本を代表する技術者教育認定団体という位置づけで、ワシントン協定に加盟しています。情報のほかには、化学、機械、建築など計16分野が設定されています。



今春の卒業生に初めて認定修了証が授与された

これを機会に、カリキュラムや教育内容を常に点検し、社会の要請を取り入れ、有意な人材を育成できるように絶えざる改善に努めてゆきたいと思っています。

(情報システム学科・教授 竹並輝之)

教員の活動 (2008 年上半期・本人申告による)

1) 研究論文・図書

池田嘉郎(情報文化学科・講師)

- ・(2008)「第一次大戦期ロシア帝国の保養地事業とナショナリズム」『19世紀学研究』第1号(122-140頁)。

白井陽一郎(情報文化学科・教授)

- ・共著「東アジア共同体憲章案:実現可能な未来をひらく論議のために」昭和堂(2008年7月刊行予定)。
- ・「The Draft Charter for an Evolving East Asian Community: Finding a Politics-Law Interface. "Social Science Japan." Vol.38, March 2008, pp.16-20.

區建英(情報文化学科・教授)

- ・(2008)「厳復の『会通』と自由」『福州大学学报』[哲学社会科学版]2008年2月号(31-36頁)。
- ・(2008)「清末中国の国粋派とナショナル・アイデンティティ—明治二本の国粋主義との関連—」米原謙編『近代日本のナショナル・アイデンティティの形成と変容—中国・韓国との関連—』(71-87頁)。

小山田紀子(情報文化学科・教授)

- ・共著(2008)「アルジェリアの近現代史」宮治一雄・宮治美江子編著『マグリブへの招待—北アフリカの社会と文化—』大学図書出版(56-70頁:287頁)。

岸野清孝(情報システム学科・教授)

- ・共著(2008)岸野清孝、山田尚史、佐々木桐子『卒業論文の作り方 複合領域分野における経営学研究の進め方』静岡学術出版(247頁)。

小林元裕(情報文化学科・准教授)

- ・(2008)「里見甫と宏済善堂—『華中宏済善堂内容概記』他について—」『年報 日本現代史』第13号(261-280頁)。

長坂 格(情報文化学科・准教授)

- ・「都市移住者によるエスニック・ビジネス・ニッチの形成:マニラ首都圏の小規模紙器工場への民族的接近」『インターカルチュラル』6(111-130頁)。

藤瀬武彦(情報システム学科・教授)

- ・共著(2008)永見邦篤、藤瀬武彦『歩行・走行運動時立脚相のヒト腓腹筋及びヒラメ筋の動態』『吉備国際大学社会福祉学部研究紀要』第13巻(65-76頁)。

アレクサンドル・ブラーソル(情報文化学科・教授)

- ・(2008)「日本の統一現代社会におけるメンタリティーと伝統」(ロシア語版)Natalis Press(360頁)。
- ・(2008)「日本人の労働と休息の特質について」(ロシア語版)『極東大学東洋学部紀要』第14巻(256-269頁)。

武藤輝一(学校法人新潟平成学院・理事長)

- ・(2008)「幽門側胃切除術(再建法も含めて)」『外科治療』98巻2号(197-212頁)。

2) 学会・研究会報告

安藤 潤(情報文化学科・准教授)

- ・(2008年3月8日)「日本経済の低迷と既婚女性の消費行動—時間配分と消費に関する合理的選択理論—」早稲田大学大学院経済学研究科諏訪研究室研究会(早稲田大学)。
- ・(2008年6月7日)「アイデンティティと経済行動—男性配偶者の家庭内・家庭外労働分担行動に関する限定合理性—」明治大学総合研究「行動経済学の理論と実証」(明治大学)。

白井陽一郎(情報文化学科・教授)

- ・(2008年5月23日)「地域主義と環境ガバナンス:EUの気候変動対策を中心に」CREP(地域主義比較研究プロジェクト)セミナー(東京大学社会科学研究所)。
- ・(2008年4月26日)「EU の持続性戦略(SDS)とソフト・ガバナンス:民主主義の観点から」第32回慶應EU研究会(Keio Jean Monnet Workshop for EU Studies)(慶應義塾大学)。

小山田紀子(情報文化学科・教授)

- ・(2008年5月18日)「人の移動から見るフランス・アルジェリア関係史—脱植民地化と「引揚者」を中心に—」歴史学研究会大会(現代史部会)(早稲田大学)。

小林元裕(情報文化学科・准教授)

- ・(2008年3月15日)「戦時日本のアヘン問題—里見甫と宏済善堂—」日本植民地研究会2007年度春季研究会(立教大学)。

長坂 格(情報文化学科・准教授)

- ・(2008年1月25日)「フィリピンからの国際移住における家族ネットワーク:出身地社会のフィールドワークから」国際日本文化研究センター・共同研究「アジアにおける家族とジェンダーの変容」研究会(国際日本文化研究センター)。

私の関心は中国の民主化と多民族社会にあります。今までは自身の切実な体験から、民主化問題に取り組んできました。最近、チベット問題が国際化されているため、今後、民族問題にも力を入れたと思います。ここでは民主化についての研究を説明します。

かつて近代中国は、帝国主義列強の侵略と封建勢力の抑圧を受ける中で近代的改革を模索し、百年の苦闘を経て国家の独立と人民の解放を勝ち取りました。新中国に生まれた私は、幸福な幼少時代を過ごしました。しかし青年期に入らないうちに、文化大革命の動乱時

代に遭遇しました。なぜ独立と解放を得た中国は再び独裁的で暗愚な状態に陥ったのか。苦しみの中で成長した私は、この痛切な疑問を持って歴史的省察を試みようとした。

しかし10年ほどたつて天安門事件が起こり、また急速な経済発展に伴って政治腐敗、貧富の格差、環境破壊などの問題も起こり、「近代化」の明暗の両側面をともに目の当たりにしています。この体験か

中国の民主化と「仁政」の伝統

情報文化学科・教授 區 建英

時代が目まぐるしく変わり、1980年代から中国は文化大革命の過ちに対決する大転換を迎え、改革開放を始めた。この時代転換に私は明るい希望を抱きました。

ら、近代中国の未完の課題として民主化問題の研究に力を入れました。100年も前から中国の近代化の歪みに気付いた思想家・嚴復は、優れた伝統とされる「仁

政」に重大な欠陥を見つけた。民を本とする「仁政」が実は官本位の体制によって施されるため、官は「仁であるが、民にとって父母のようになるが、暴虐であれば、狼になる」と嚴復は指摘しました。中国の歴史上、民のために心血を注ぐ官も多く、その「親民」精神は無論、現代社会に生かされるべき大切な伝統です。しかし民の自治と自由が欠けていけば、「狼になる」政治を防ぐことができません。私は、市民の自治と自由による真の「仁政」を説いた嚴復の思想を考察し、『自由と「国民」』という著書を著しました。

私の研究テーマ

なぜ我々はコンピュータを学ばなければいけないのでしょうか。

例えば、メガネというものがあります。機械とは呼ばれませんが、コンピュータと同じように人をサポートするために人が作ったものの一つです。そのメガネの使い方を大学や専門学校で学ぶのでしょうか。メガネを作るのではなく、ただ使うだけならば、それはないと思います。メガネというものは使い方がとても簡単なので、何も学ばなくてもすぐに使うことができるからです。

しかし、現在のコンピュータはそうではありません。

ん。とても複雑な操作を覚えなければ、使いこなすことは難しいでしょう。そのために専門の学校などで学ぶ必要があるわけです。

使っていることさえも忘れてしまうものなのです。私の研究テーマは、究極的には、コンピュータをメガネのように簡単に使えて、そして使っていることを忘れて

メガネのようなコンピュータ

情報システム学科・講師 中田 豊久

っている本人がそのメガネの存在を忘れてしまうことがあります。例えば掛けているのにそのメガネを捜そうとしたりします。このようにメガネというものは、使い方が簡単であるだけでなく、ときには

しまうような機械にすることです。このような考え方は、ユビキタス、バーベシブ・コンピュータインテグレーションという研究分野で主に議論されています。このような目標のもと、具

体的には、書店や図書館などで自動的に本を推薦するシステムを構築しています。このシステムのユーザーは、難しい操作をしなくても本の推薦を受けることができます。例えば、ある本を手にとつて少し見てみると、その本に関連した本を自動的に推薦してくれます。もちろん推薦されることを好まないユーザーもいるので、そのような人には、あまり推薦しないようにシステム自身が気をつけます。このようなシステムについて、実際に構築し、実験をしながら研究を進めています。

高校生はじめどなたでもご参加できます!

OPEN CAMPUS 2008 オープンキャンパス

2回目 10/5日
10:00~15:00

- 学科及びカリキュラム説明
- 入試情報説明
- 入試問題の傾向と対策
- 模擬講義
- コンピュータ実習
- 語学体験
- 個別入試相談
- 就職相談
- 海外留学相談
- 学生との懇談
- 学内見学



会場 新潟国際情報大学 本校 みずき野キャンパス 新潟市西区みずき野3-1-1 (JR越後赤塚駅下車 徒歩7分)

参加お申込み・お問い合わせ

新潟国際情報大学 広報係

〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1

TEL025-239-3111

FAX025-239-3690

E-mail soudan@nuis.ac.jp

※変更となる場合もありますので、事前にご確認ください。

NUIS-LIVE

大学ではどんなことを学ぶの?
NUISの特色ある講義を体験しよう!

1日体験入学

日程 8/20水
時間 10:00~14:50

講義内容

- 異文化理解
- 現代中国論
- ジェンダー論
- 生産情報システム
- マルチメディア情報処理
- 行動科学



<http://www.nuis.ac.jp/ic/library/book/book.htm>

小川勝著

角川書店(2001年)

彼はMLBの84年も前の最多安打記録を更新した天才的バッターです（日本では史上初の200本安打）。極論すれば、小学校3年生のときからほぼ毎日野球しかやっていたのではない人が最も独創的な人を選ばれたのです。プロ2年目

スポーツ大会を終えて

スポーツ大会実行委員長
情報システム学科4年 石井 彩子

開業を記念して平成6年から開催されている恒例のスポーツ大会が5月23日に行われました。スポーツ大会実行委員会が主催した今年度の種目はミニサッカー、ソフトバレーボール、大縄跳び、フリースロー。快晴に恵まれ、ゼミやササキスクール、有志のチームが参加し教職員と一緒に心地よい汗を流して交流を深めました。アームレスリッピン大会は今年度就任したばかりの平山征夫学長が飛び入り参加して大いに盛り上がりしました。

今年はスポーツ大会実行委員として、多くの新入生が活動してくれました。そのため、準備はとて

4種目で交流深める

もスリーズでできたと思います。大会当日まで余裕を持って準備をすることができました。当日はアリーナ、グラウンド、本部との連絡がうまくいかなかったなど細かい改善点ではありますが、無事に終えることができました。

さて、例年問題となっていることですが、本学生のスポーツ大会への関心が薄いように思われます。実行委員会としても、種目や宣伝活動で工夫をしてみたいと思いますが、まだまだ改善するところがある

ると感じました。

また、うまくいった点としては、ごみの問題が改善されたことです。喫煙や飲食の場所をしっかりと守るということが参加者のなかで浸透していると思います。

今年初めてスポーツ大会実行委



ミニサッカー

委員長をやり、感じたことは学生の皆さん、教職員の方々、実行委員会メンバーなどすべてに支えられて、この伝統行事を無事に終えることができたのだということだと思います。本当にありがとうございます。



独創的な考え方や行動を貫き通したさまざまな努力の結果が記録庫新につながったのではないでしようか。

今の日本人は「信念がなくすべ

て横並び、行動は起こさず、常に指示待ちで、問題は先送り」と票

などというタイトルの本を学会の
大先生が書いたとしたら、正直言
って私は見向きもしない。読む前
からだいたい内容は想像できる。
ただこの本は違う。著者は19
72年生まれ、新進気鋭の女性の
旧ソ連研究者である。彼女は20

る。また国境越えの危ない体験談には読むだけで冷や汗が出る。現場主義の地域研究には時にはそれも必要なのだろう。著者の体当たりの研究成果に拍手！

（情報文化学科・教授
小澤 治子）

『強権と不安の
超大国・ロシア
旧ソ連諸国から見た
「光と影」』

（情報システム学科・教授）
藤瀬 武彦

評する人がいますが、自分もその傾向があると思反省する方や、礼儀もなく生意気な若者が多いと思われている管理職の方にも、もちろん、当時のイチロー選手と同年代の学生の皆さんにもお薦めしたい一冊です。ただし、内容は野球やスポーツ科学に関する記載が多いので、これらに興味のない方にとっては、精読するのに努力が必要になります。

00年から01年にかけて、旧ソ連構成共和国アゼルバイジャンの首都・バクーで現地研究を行った。その時の調査を中心に旧ソ連諸国が抱える問題点、ロシアの現状、ロシアと旧ソ連諸国の関係、日本は旧ソ連にどう向き合うべきかなどについて自身の生々しい体験を踏まえてまとめたのがこの本なのだ。

アゼルバイジャンといってもビ

平成21年度 入学者選抜試験概要（要約一覧）

入 試 区 分		募 集 人 員		出 願 期 間		試 験 日		試験地		試 験 実 施 教 科 ・ 科 目		合 格 者 発 表 日		入 学 手 続 き 期 間	
推 薦 入 学 試 験	高校長推薦 指定校制	情報文化学科	10	30	20年11月 1日(土) } 11月11日(火)	20年11月16日(日)	新潟	本学が指定校と定めた高校長あてに 推薦依頼を行います		20年11月20日(木)	20年11月20日(木) } 12月 5日(金)				
		情報システム学科	20												
	高校長推薦 公募制	情報文化学科	30	65											
		情報システム学科	35												
	高校長推薦 スポーツ	情報文化学科		若干名											
		情報システム学科													
社会人入学試験		情報文化学科		若干名	面接・小論文										
		情報システム学科													
一 般 入 学 試 験	前 期	情報文化学科	35	95	21年 1月 6日(火) } 1月22日(木)	21年 2月 2日(月)	新潟 上越	・国語：国語総合(現代文)・現代文 ・数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅲは、微分・積分を除く) ・外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択		21年 2月 7日(土)	21年 2月 7日(土) } 2月17日(火)				
		情報システム学科	60												
	大学入試 センター試験 利用	情報文化学科	15	35	21年 1月30日(金) } 2月16日(月)	21年1月17日(土)、 18日(日)の 大学入試センター試験を 受験していること		学科試験を課さず、平成21年度の大学入試センター 試験の成績で判定、全教科の中から2教科2科目選択 記点：各教科100点(3科目以上受験した場合は高得 点の2教科2科目を可否判定に使用。国語は近代以降 の文章のみ利用。外国語(英語)はリスニングを含む。)		21年 2月21日(土)	21年 2月21日(土) } 3月10日(火)				
		情報システム学科	20												
	後 期	情報文化学科	10	25	21年 2月16日(月) } 3月 3日(火)	21年 3月10日(火)	新潟	・国語：国語総合(現代文)・現代文 ・数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ (数学Ⅲは、微分・積分を除く) ・外国語：英語Ⅰ・英語Ⅱ 上記3教科の中から2教科を試験場で選択		21年 3月13日(金)	21年 3月13日(金) } 3月24日(火)				
		情報システム学科	15												

本学独自の奨学金制度(給付)

- 学費特別給付奨学金(全学年対象)授業料全額又は1/2
- 表彰奨学金(2～4年生対象)10万円
- 海外派遣留學・海外研修奨学金(2年生対象)15万円～23万円
- 資格取得奨励奨学金(全学年対象)I種5万円、II種2万円
- 学費臨時給付奨学金(全学年対象)授業料・施設設備費の当該期分全額又は1/2
- 学費奨学融資制度奨学金(3・4年生対象)借入利息相当額

◎入試と奨学金の詳細については事務局までお問い合わせください。 TEL025-239-3111 E-mail gakumu@nuis.ac.jp

卒業生の便り

大 菊地 情報システム学科2000年度卒業

日産プリンス新潟販売(株)に
入社して8年になりました。

入社した当時は車の知識もなく、最初は主に店頭販売からのスタートでした。

一つひとつの商談ごとに勉強していた毎日を出しています。車の知識が十分でなくても、逆に専門用語を使わない説明でも、お客さまにより分かりやすく伝えることが出来ることもありました。

もちろん販売するだけではなく、その後のアフターサービスにも親身になって応え、素敵なカーライフができるように情報提供しています。年齢・性別を問わず、さまざまなお客さまと接することができる、

「自分」を買っていただく営業マン

それがこの仕事の魅力だと思います。大学時代はサッカー部で活動していました。その経験が生きてお客さまと一緒に夜

になると練習しています。汗を流した後に食事に行くこともあります。こういったお付き合いが面白い部分でもあり、難しい部分でもあります。

母校からも多くの後輩たちが当社に入社しています。今は流通本部営業課主任の役職になって後輩教育などさまざまな仕事もありますが、みんなライバルだと思って日々頑張っているところです。

サッカー部での活躍も生きてます



営業マンとして心掛けていることは、自分に自信をもつこと、そしてお客さまから信頼していただくことです。さらに「自分」を買っていただくことです。お客様から最後にいただく、この車に出合えて「ありがとう」という言葉が最高の幸せと思っています。

国際交流フェア開催

春の恒例行事となっている国際交流フェアが4月21日から5月22日の期間、みずき野本校と新潟中央キャンパスの2会場で開催されました。

異文化理解の架け橋に

5カ国での研修成果を披露

このフェアは、本学の国際交流活動を広く学生や地域の皆さまに知っていただくとともに、国際交流と異文化理解の掛け橋になるように、前年度の派遣留学および海外夏期セミナーに参加した学生が中心となって催されるものです。まず開催初日から5日間、会場を新潟中央キャンパスに移し展示を行いました。また、新潟市で行われた主要国首脳会議(サミット)労働相会合を機に開催されたドイツ社会保障史展と重なったこともあり、スペースこそ縮小されましたが、本校での展示に劣らないバラエティーに富んだ展示内容となつて、多くの市民が見学に訪れました。



民族衣装でパフォーマンス

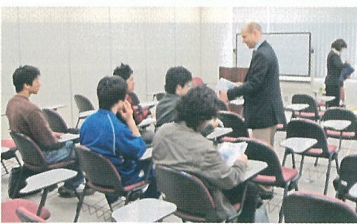
アルバータ大学から3氏が来敬

情報システム学科の海外夏期セミナー受け入れ提携大学であるカナダのアルバータ大学エクステンション学部から、Dr. Kathy Campbell (学部長)、Ms. Mimi Hui (管理責任者)、Mr. Sebastian Panchuk (事務担当)の3氏が4月22日に本学を訪問されました。

一行は、平山征夫学長を表敬され、本学施設を見学し、昨年と今年の海外セミナー担当教員との打ち合わせを行いました。

また、今年の夏期セミナーに参加する本学学生たちと親しく交流し、学生たちは、現地での授業や生活に関する質問を英語で行いました。3氏からは、学生の質

夏期セミナー参加学生を激励



学生たちと英語で懇談

間に対する丁寧な回答と説明があり、またアルバータ大学での勉強とカナダでの生活を大いにエンジョイしてほしいとの激励をいただきました。夜には場所をホテル新潟に移し、関連の教員と交え、平山学長との食事が催され、両校の友好と提携の継続を確認しました。

湧源

編集後記に代えて

広報委員長 澤口 晋一

今春、新潟県内の高校の卒業生は2万3714人(前年度比90.2人減)で、このうち4年制大学進学者は9329人(当年度生)であった。前年度比較では506人増、進学率では3.5ポイント上昇し過去最高となった。

一方、県内大学への進学状況を見ると、4年制大学への進学者は3035人、前年度比87人増でこちらも過去最高となっている。しかし、進学率では前年度比0.9ポイントの低下となった。これを国公立、私立に見ると国公立大学(4大学)への進学者は1113人、私立大学へのそれは1922人であった。県内には理工系を含め11の私立大学があるが、今年度の合計定員は2484人であったので、数字上では県内の私立は既に自県の高校生だけでは定員を満たせない状況に陥っていることになる。

18歳人口の大幅な減少を鑑みれば、こうした状況は必然であつて、なす術はないと諦めるしかないのであらうか。

ここで最初に触れた本県の4年制大学進学者と県内4年制大学への進学者数を見てもいい。実に7割近くが県外の大学に流出してしまっている(させてしまっている)のである。県内私立の定員確保を難しくしている最大の原因は、実はこの流出率の極端な高さにあり、18歳人口の減少は、現時点ではそれほど深刻な問題ではない。流出率を7割から5割ぐらゐまでに抑えられれば定員は十分に確保されるのである。しかし、現実には90近い県外の大学が新潟に試験会場を設置し、受験生を毎年吸収している。こうした中で流出率を5割にとどめるのは容易なことではないだろう。

ただ、それは決して不可能なことではない。新潟では定員をはるかに超える受験生の輩出が今後しばらくは続くのである。その間に、どうすれば彼ら彼女らの目を県内私立に向けさせるのか。問われているのはむしろ、われわれ大学側の姿勢と取り組みではないのか。大学広報としてもその任は重い。